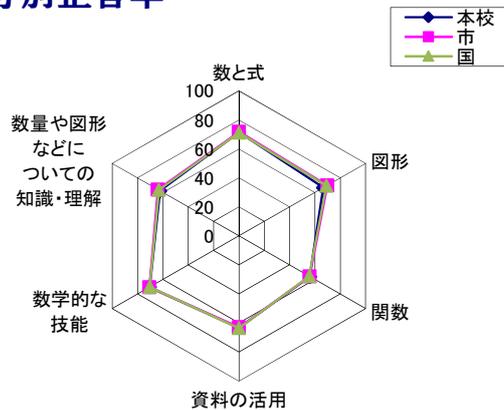


宇都宮市立陽西中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

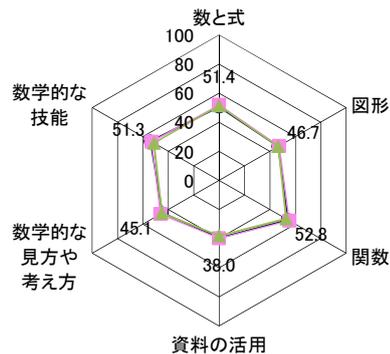
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	71.5	71.7	71.1
	図形	66.6	69.7	69.1
	関数	56.0	55.8	55.5
	資料の活用	63.3	62.9	63.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	70.5	70.6	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	62.3	64.0	63.3



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	50.7	52.0	51.4
	図形	46.7	47.3	46.7
	関数	54.2	55.4	52.8
	資料の活用	39.6	39.8	38.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	44.9	46.3	45.1
	数学的な技能	54.0	53.1	51.3
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は、全国平均より数学Aは0.4ポイント高く、数学Bは0.7ポイント低い。</p> <p>○「数量の大小関係を不等式に表す」ことへの理解は全国平均を15.3ポイント上回っている。</p> <p>●「指数を含む正の数と負の数の計算」では全国平均を12.7ポイントも下回っている。「具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形すること」の無解答が17.2ポイントだった。</p>	<p>・基本的な計算力の定着のために、計算テストを行い、速度と正確さを高めていく。</p> <p>・指数など、基礎的な学習内容については繰り返し学習を行うことで、確実に定着させる。また、基本的な内容についての理解を深めることで、応用につなげていく。</p> <p>・等式の式変形については、性質を確実に定着させ、その上で目的に応じて変形させられるよう、練習の機会を増やしていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、全国平均より数学Aは2.5ポイント高く、数学Bは同じである。</p> <p>○「折り目の線の作図と核の二等分線の関係」の理解は全国平均を4.3ポイント上回っている。</p> <p>●「三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係」は全国平均を11.0ポイント、「見取り図、投影図から空間図形を読み取ること」の理解は全国平均を6.2ポイント下回っている。</p>	<p>・図形についての定義や定理、性質などの基本的な学習内容を丁寧に指導し、より確実な定着を図っていく。また、基礎を確実にすることで、発展につなげていく。</p> <p>・教材・教具を工夫し、具体物をできるだけ多く取り入れて、イメージしやすくし、理解を深めていく。</p>
関数	<p>平均正答率は、全国平均より数学Aは0.5ポイント高く、数学Bは1.4ポイント高い。</p> <p>○「一次関数$y = -2x + 6$が表すグラフを選ぶ」は、全国平均を6.2ポイント上回っている。</p> <p>●「一次関数の意味を理解している」は全国平均を5.4ポイント下回っている。</p>	<p>・関数を「表」「式」「グラフ」にそれぞれ表すことを関連付けて、丁寧に指導し、確実に定着させる。</p> <p>・一次関数の意味については、定義を確実に定着させ、それぞれの言葉の意味を繰り返し問いかけることで、定着を促していきたい。また、それぞれのもつ性質についても、様々な角度から観察することで、理解を深めていく。</p>
資料の活用	<p>平均正答率は、数学Aは0.2ポイント低く、数学Bは1.6ポイント高い。</p> <p>○「与えられた資料から中央値を求めること」の理解は、全国平均を3.5ポイント上回っている。</p> <p>●「表などを利用して、確率を求めること」の理解は、全国平均を6.8ポイント下回っている。</p>	<p>・資料の活用に関しては、何を調べたいのか、どの方法で調べるのかを明確にし、その理由を説明する活動を通して理解を深めていく。</p> <p>・確率の求め方について、樹形図を用いたり表を用いたりする方法を練習することを通して、理解を深めていく。</p>